

# 「救済」の精神で

## 日本海員救済会

5

### ■年度内に実証実験

— 船員医療に関する新しい取り組み。

「船員の災害防止に関する基本事項を定めた2019年度に『船員災害防止実施計画』が18年度中に作成される見込みだ。この中にはIoT（モノのインターネット）を活用し、

した船員医療支援が盛り込まれている」

「電話とファクスを使い船上から患者の容態を伝え、医師の指示の下、治療を施す無線医療相談という制度があるが、緊急時は伝える側が口頭だけでは、正確に情報を伝えることができないケースもある。こうしたことを防ぐため、動画をネットと

### ■船員に必要不可欠

— 無線通信医療相談などの医療制度は船員にとってのよき存在か。

「無線通信医療相談や洋上救急制度があるが、いずれも船員にとって必要不可欠な事業だ。陸上と異なり、船上で傷病者が発生した場合は、すぐに病院には行けない。こうした制度があるから、船員は安心して船に乗り組める」

「また、船員にとって船は生活の場となっており、洋上で業

務をすることが多い。このよう

な中、船舶衛生管理者の資格を

持っている船員は頼りになる。

体調が悪い時には医師の指示の下、適切に対処することができ

る」

「私自身も船舶衛生管理者の資格を有しており、船に乗っていた頃は薬の管理などをしていて、こうした経験もあり、船員に対する医療制度の重要性は身に染みて分かっている」

「さらに、日進月歩する医療知識・技術を学ぶためには船舶衛生管理者の再講習も必要だ。

全日本海員組合組合長

森田保己氏

国土交通省海事局船員政策課長

三輪田優子氏

送信するスマートグラスを装着し、映像で確認する医療相談を実施する仕組みについて検証してみた」



「映像で確認するので、言葉だけでは説明しづらい状況を、医師が視覚で認識することで正確な指示を出すことができる。

さらに、ネットを通じて船員の体調を管理する取り組みも検討している」

「血圧の

— 衛生管理者講習の実施主

「この新しい取り組みについては、年度内には実証実験を実施したい」

「衛生管理者講習の実施主

「この新しい取り組みについては、年度内には実証実験を実施したい」

「衛生管理者講習の実施主

「この新しい取り組みについては、年度内には実証実験を実施したい」

「衛生管理者講習の実施主

定だ」

### ■船員の命を守るため

— ILO（国際労働機関）海上労働条約が義務付ける無線医療相談などの船員支援事業について、どのように捉えているか。

「船員の命を守るための無線医療相談、ヘリで医師が現場に出向く洋上救急は極めて重要だ。全国各地にある日本海員救済会の病院で実施している無線医療相談や洋上救急は、船員の命を守るために引き続き実施してほしい。国交省としても支援していきたい」

# IOT活用し船員医療支援

# 洋上救急は最後の頼みの綱



薬の処方なども含め新しい知識・技術をアップデートしていく

「特に、日本海員救済会が中

「船員養成の観点からも医療

の充実には欠かせない。何度も言

い

「船員養成の観点からも医療

の充実には欠かせない。何度も言

い

「船員養成の観点からも医療

の充実には欠かせない。何度も言

い

「船員養成の観点からも医療

の充実には欠かせない。何度も言

い

なければならぬ。これを実施していることは本当にありがたい」

「制度があるからこそ、多くの命が救われているという事

「船員養成の観点からも医療

の充実には欠かせない。何度も言

い

「船員養成の観点からも医療

の充実には欠かせない。何度も言

い

「船員養成の観点からも医療

の充実には欠かせない。何度も言

い

「船員養成の観点からも医療